

■代表

堀 達也 元北海道知事（公益財団法人北海道スポーツ協会会長）

■副代表

- 石森 秀三 北海道博物館 館長
横内 龍三 北海道経済同友会 顧問（北洋銀行 元会長）
田岡 克介 北海道縄文のまち連絡会前会長（前石狩市長）
荒川 裕生 北の縄文文化を発信する会幹事（札幌大学理事長）
真弓 明彦 北海道経済連合会 会長（北海道電力会長）
石井 純二 北海道経済同友会 会長（北洋銀行取締役会長）
岩田 圭剛 北海道商工会議所連合会 会頭（岩田・地崎建設社長）
小磯 修二 北海道観光振興機構 会長

■名誉代表

鈴木 直道 北海道知事

■理事

- 氏家 和彦 北海道電力株式会社 取締役副社長
大木 孝志 北海道銀行 副頭取
勝木 紀昭 北海道エネルギー株式会社 代表取締役会長
加藤 欽也 ほくていホールディングス・昭和交通・はまなす交通 代表取締役社長
菊谷 秀吉 伊達市長 北海道縄文のまち連絡会 会長
境 勝則 道南縄文文化推進協議会会長（トーションビルサービス代表取締役）
柴田 龍 札幌観光協会 会長（北洋銀行取締役副会長）
田中 良治 タナカメディカルグループ 理事長
二階堂恭仁 北海道中央バス株式会社 代表取締役
野口 秀夫 室蘭縄文の会 会長 野口観光株式会社 代表取締役
浜名 正勝 北海道を愛する会 代表
古野 重幸 フルテック株式会社 代表取締役社長
堀 安規良 ホリホールディングス・株式会社ホリ 代表取締役社長
本田 優子 札幌大学 教授
宮田 昌利 サンエス電機通信株式会社 代表取締役
村田 正敏 北海道エアポート株式会社 常勤監査役
山谷 吉宏 北海道信用保証協会会長 元道副知事
綿貫 泰之 JR北海道 取締役副社長



YouTubeチャンネル始めました！

道民会議主催イベントの様子や、縄文遺跡ツアーの様子などを動画で紹介中です。今後も順次アップロード予定！チャンネル登録をお願いします。

Facebookも要チェック！
最新情報続々更新中！
https://m.facebook.com/pg/jomondomin

編集後記
『北の縄文』秋号の発行にあたり、北海道経済連合会会長、真弓様からご寄稿いただき、お礼申し上げます。前回の夏号から本誌を大幅リニューアルしましたが、YouTubeチャンネルの開設など、SNSでの情報発信強化にも努めているところです。今後とも、皆様方の応援、よろしく願い申し上げます。(K.W)



CONTENTS
■P1 北の縄文コラム
■P2,3<特集>北翔大学インタビュー
■P4,5<連載>遺跡ルポ！
■P6 役員名簿、編集後記

北の縄文コラム



北海道経済連合会
会長 真弓 明彦

北海道出身。1979年、北海道電力株式会社入社。2014年、同社取締役社長に就任。2020年現在、同社取締役会長。2019年、北海道経済連合会会長に就任。北の縄文道民会議副代表。

世界文化遺産登録をめざす「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、昨年12月にユネスコへの推薦が決定し、本年1月に推薦書が提出され、9月には国際記念物遺跡会議(ICOMOS)による現地調査が行われたと承知しております。

これまで、世界遺産登録へ向けた活動を推進されてこられた縄文遺跡群世界遺産登録推進本部の皆様、国会議員連盟や道議会議員連盟の先生方、北海道縄文世界遺産推進室はじめ関係自治体の皆様、また、気運醸成等を担われてこられた北の縄文道民会議の会員はじめ関係団体の皆様のご努力に敬意を表します。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の内、道内には、函館市(2)、千歳市(1)、伊達市(1)、洞爺湖町(2)の6つの構成資産と1つの関連資産(森町)があります。さらに、道内にはこれら以外にも、縄文遺跡が7,000カ所以上あり、広域に点在しています。縄文の宝庫とも言えるのではないのでしょうか。

本州では縄文が終わり弥生文化へ進みましたが、北海道では縄文以後も、続縄文文化からアイヌ文化へと続く独自の流れを見せてきたと伺ったことがあります。

アイヌ文化復興の拠点となるウポポイが、本年7月に開業しました。これに続いて、縄文遺跡群が世界遺産に登録されると、これら2つの文化を守る北海道が、国内外からさらに注目されると思います。今後はこれらの保護と活用の両立を探っていく必要があるのではないのでしょうか。

また、来年は、北海道でアドベンチャーワールドサミットが開催予定であり、来道者増加を大いに期待していますが、アドベンチャーワールドにおいても、自然との関連性や、異文化交流の面から、注目されると思います。

北海道で独自の流れを見せてきた縄文文化、そしてウポポイと共に復興されるアイヌ文化、コロナ禍で観光需要が大幅に減少しているところですが、ポストコロナ時代の観光需要を見据えた、文化を観光の柱とした新しい需要創出の可能性を大いに感じています。



INTERVIEW

北翔大学芸術学科小室研究室×北海道縄文世界遺産推進室

令和2年8月1日～4日まで、札幌駅前通地下歩行空間にて開催された、北の縄文道民会議主催「縄文夏まつり」。メディア・アート作品「縄文トランスプロジェクション」を本イベントのために制作して下さった、北翔大学芸術学科小室研究室の小室教授と学生2名にお話を伺いました。



芸術学科4年 能崎大輔さん 映像制作担当

芸術学科3年 岩永昂樹さん 原画・絵コンテ担当



▲イベント当日の様子



▲制作時の資料など。プロジェクトメンバー丸となってアイデア出しを行った様子を窺うことができた

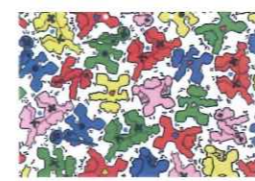
北翔大学芸術学科小室研究室×北海道縄文世界遺産推進室

これまでにない斬新な発想で縄文文化の新たな可能性を感じさせてくれた本作品。既存の価値観にとらわれない自由な発想は多くの人の心を掴みました。

今回は、縄文トランスプロジェクション制作チームの中心として活躍した北翔大学芸術学科4年 能崎大輔さん、同3年岩永昂樹さん、そしてチームのディレクターを担った小室晴陽教授にお話を伺いました。

—制作の様子を教えてください。

(小室教授)
制作が本格化した春先、新型コロナウイルスの影響で研究室に集まることができず、オンラインで作業を進めました。土偶の写真をじっくりと観察し、みんなでワイワイとアイデアを出し合いました。多くの人に見てもらい、多くの人に共感してもらうには、みんなで楽しみながらアイデアを出し合うことが大事です。アイデアを共有するうちに、土偶はまさに現代アートであると改めて気づかれました。



▲オンライン会議では様々なアイデアが飛び交った。デザインを手がけた岩永さんの一番のお気に入りには二枚橋の遮光器土偶(上)。

—制作のコンセプトやこだわりについて

(能崎さん)
「もんぐるの縄文ライフ」では、縄文時代の平和で牧歌的な生活のようすをプロジェクション映像で表現しました。細かい表現にこだわり、既存の静止画の素材に動きが出るようアニメーションを作成しました。また、もんぐるが冒険する様子を手前、土器や土偶の写真を奥のスクリーンに映すなど、3面空間の特性を活かした映像制作を心がけました。

(岩永さん)
「縄文土偶ヒーロー」のアイデアは直感的に湧いてきました。かなり遊びを利かせたデザインなので、土偶へのリスペクトを欠いていると思われるようよく観察し、細部の表現までこだわりました。

—縄文文化に対する印象の変化はありましたか。

(能崎さん)
はじめは縄文文化と聞いてあまりピンときませんでした。縄文時代の生活の様子を知るうちに段々と興味が出てきました。今後、縄文時代の生活をさらに勉強してみたいと思います。

(岩永さん)
縄文と聞いて思いつくのは土器か土偶くらいでした。制作を通して、いろいろな土偶の細かい模様を丁寧に観察するうちに、「この造形すごいな」と縄文文化に対して尊敬の念を抱くようになりました。縄文文化の自由なところが好きです。身分や貧富の差がなかったからこそ、こういう自由な発想が生まれたんだと思います。

—今後の展望を教えてください。

(小室教授)
今後またこのような機会があれば、さらにパワーアップさせたいと思います。今回の作品では尺の関係で適いませんでしたが、鑑賞者に映像の中に入ってもらい、トランスプロジェクションと戯れるようなインタラクティブ性を加えれば面白いと思います。学びという堅いですが、これをきっかけに縄文文化を調べてみようと思えるようなコンテンツをつくりたいです。次のイベントでは、好評を頂いた土偶ヒーローTシャツをみんなで着ます。(笑)

また、トランスプロジェクションの制作にあたっては、いかにシンプルなつくりにするかを工夫し、パソコンを持ち込まなくても上映できる仕組みにしました。ハイエースに積み込んで、地方巡業でもできればいいですね。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産登録に向けて最終局面を迎えている今、私たちの取組が登録実現への追い風になれば嬉しいです。

